

株式会社ジェイコム東京 武蔵野・三鷹局
放送番組審議会 議事録

令和元年（2019 年度）株式会社ジェイコム東京 武蔵野・三鷹局 放送番組審議会委員会は、
2020 年 3 月 10 日（火）吉祥寺第一ホテル 7 階「カトリア」で開催された。

【放送番組審議会委員】

阿部 哲 様
金子 彰 様
見城 武秀 様
白戸 謙一 様
土方 弘子 様
平之内 智生 様
和久津 豊 様

事業者側から J:COM チャンネル（11ch）と J:COM テレビ（10ch）について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：見城会長

■「2019 年度編成報告」について

委員

ライフスタイルが多様化する中、様々なメディアを通じて正しい情報を伝えていただいている。

現在三鷹市では防災、減災を重要視しており防災訓練では協力いただいている。

メディアも多様化しているが、ご高齢の方は特にテレビを重要とされている。その中テロップで情報を正確に
伝えられている。

放送番組とは異なるが、地域 BWA（公共 Wi-Fi サービス）の実証実験を一緒にやらせていただいている
が、特に防災関係は強みがあると感じている。引き続き協力いただきたい。

委員

台風などの災害時、危険な場所への取材などあるかと思うが、社員へのリスク管理取り組みはどのように
なっているか。

事業者

基本的に台風が来ているときの現地取材活動はしないことにしている。

危険な場所に取材へ出向くより、行政などからの情報を優先して放送する方が良いという判断。

制作事業所に集約し、各行政担当者などへ電話確認の上、災害情報をテロップ等で放送している。
取材は台風通過後に改めて行う。

委員

台風などの災害時は外の状況を知りたいけれど分からない。
定点カメラの映像がジェイコムでも注目を浴びたと思っているが、定点カメラを行政と連携しながら、行政施設等へ増やしていくことでリアルタイムな情報を伝えることを検討いただけたらと思う。
近くに住む住民にとっては一番気になる場所。
「デイリーニュース」では、武蔵野市・三鷹市の調布や世田谷区などエリア外のニュースも一部放送しているようだが、エリア外ニュースの選定基準を知りたい。
去年は「J:COM テレビ」の「ご当地サタデー♪」に武蔵野市として出演させていただいた。
今後も吉祥寺以外に武蔵野市地域として全国へPRさせていただけたらと思うので、次回は「笑福亭鶴光 オールナイトニッポン TV」での出演なども検討させていただきたい。

事業者

定点カメラについては、現在大型一級河川には国土交通省が定点カメラを持っているので映像を借りられないか検討している。
デイリーニュースのエリア外選定については、当然武蔵野市・三鷹市の話題が優先順位としては一番高いが、お客様のお住まいのエリアによっては武蔵野市・三鷹市よりも調布市が近いという方もおられるためエリア外であっても近隣地域の有益情報があれば放送をしている。

事業者

地域 BWA の仕組みでは、全国的にみると BWA の回線を利用して河川の増水の状況をチェックしている自治体がある。
例えば下流では雨が降っていないが、上流では降っているなど定点カメラの映像を無線で飛ばしチェックする、など。今後さらなる有効な手段を考えられればと思っている。
ニュース番組については、取材した映像が主になっていたと思うが、告知をする場にもなるため、逆に武蔵野市・三鷹市のイベントを近隣エリアに事前にご紹介させていただき誘致にも利用させていただきたい。

委員

「J:COM チャンネル」と「J:COM テレビ」のネーミングだけだと違いが分からなかったが、説明をいただき理解できた。
ただ、二つのチャンネルのネーミングが分かり難いと感じているが、どのように決めたのか。

事業者

最初は「J:COM チャンネル」だけだったが、新しいチャンネルができた際、名前を社内公募で決めてしまった

ため分かりにくくなってしまった。

「J:COM テレビ」の存在自体も年を追うごとに少しずつ変わってきた。元々ジェイコムサービスのチャンネルを無料で放送し、そこから専門チャンネルを知っていただくポータルサイトのような役目だった。

しかし元々ある「J:COM チャンネル」をより狭小化し地域の価値を高める一方で、「J:COM テレビ」では全国に発信することを主眼にここ2～3年で変化してきた。

当然この2つのチャンネルは当社サービスに加入又は設備導入をしていないと視聴できないので、加入等していない方々にも幅広くご視聴いただくために「ど・ろーかる」のアプリができた。

この3つがうまく連携し、ジェイコムの良さを知ってもらうツールとなっている。

事業者

全国にジェイコム以外のケーブルテレビ会社が多くあり、各地域の有名なお祭りやイベントなどいろいろな映像を持っている。それらのコンテンツはケーブルテレビ連盟を通じて共有しており、そのツールとしても「J:COM テレビ」を利用している。

委員

20年前はTV中心の生活だったが、現在はTV離れと言われている中、ジェイコムはアプリの開発・アーカイブを積極的に取り入れている。同じTVを作る立場でTV離れをしている人にどのようなアクションを起こしたらよいか悩んでいる。

そのような中で、編成方針に掲げている、「地域の魅力を市民に発信」「市民の知りたいに答える」という部分に共感し、今後も一緒にやっていきたいと思った。

市民からのリアルタイムの情報をニュースの中に取り込むことはできるのか。

市民が街の情報をジェイコムに渡せばフィードバックしてくれると思ったときに、「地域のために自分は役に立っている」と感じられると思う。

定点カメラの充実、災害時に市民が協力できるツールを確立いただきたい。

TV離れと言われているが、市民の皆様からは「地域の情報を発信していただいてありがたい」という声を多くいただいている。

事業者

「ど・ろーかる」の中にも動画投稿ができる仕組みがあり、

三鷹市のシルバー人材センターにも協力いただき、災害後の映像にかかわらず、何かあれば映像を送ってくださいとお願いをしている。

事業者

災害時わざわざ外へ出てしまうことは危険なので、地上波のニュース等でも視聴者投稿映像が紹介されることもあるように、「たまたま家にいたらこんな映像が撮れましたよ」というような内容であれば投稿いただいた映像をニュースで利用する事なども検討ができる。

委員

エリアが限られているので、編成方針に掲げている「コミチヤンの価値向上」「地域と共生する企業としてのブランドイメージの定着」について特に深堀をしていただきたい。エリア内の方に、どうブランディングしていくことが重要だと思う。メディアが多様化しており、ユーザーも細分化されており、従来からのマスメディアも埋没していく状況なので、マーケット内の方々にジェイコムをアピールできるかを意識してマーケティング、発信共にやっていただけると、本来もっている地域のメディアとして魅力を発揮できると思っている。

委員

武蔵野三鷹地域に非常に寄り添った報道、番組内容を心掛けていただいている。ありがたいことなのでこれからもより一層地域に寄り添った情報発信を続けていただきたい。

地域の方の関心だけでなく、ラグビーや「ど・ろ・かる」など、地域内外の視点を組み合わせた番組、戦略が増えている印象だった。

加入者向けイベントも地域プロモーションにつながるイベントになっているという印象。国立天文台などは地元の人もなかなか足を運ばないが魅力的な場所を伝えるイベントとして全国からの注目を浴びているとの事であるので、今後も同様の魅力的なイベントを続けていただきたい。また、今後のイベント等の予定などあれば、教えていただきたい。

事業者

国立天文台ツアーは昨年初めて開催したが、全国から多数の応募をいただき、あれほどの反響があるとは思わなかった。

来年度は加入者だけでなく、未加入者の方も対象としたイベントにしたい。

吉祥寺のアニメワンダーランドは台風 19 号の影響により中止になってしまったが、実はアニメ専用のチラシを作成し、エリア外のショップにも配布して周辺の地域の方の集客も望んでいた。

ジェイコム東京という括りもあるので、来年度は改めて周辺地域にも J:COM チャンネル等も通じて発信をし、さらに規模を拡大し、イベントを盛り上げられたらいいなと思う。

そのほかにも我々も気づいていない魅力的なものがあると思うので、皆さまからご提供いただけたらと思う。

再来年の 2021 年には女子のラグビーワールドカップもある。武蔵野市にある横河電機の女子チームから多くの選手が日本代表に選出されており、また、J:COM チャンネルでは同ラグビー部の応援番組等もあるため、いろいろな形で協力しながら盛り上げたい。

以上